

越前蟹と水仙の文学コンクール入賞者 大賞作品

テーマ
かおり

俳句部門 (小学生の部)

大賞

織田小学校 四年 泉 初音
「水仙のかおりよとどけ祖母のはか」

奨励賞

四ヶ浦小学校 二年 山本 尉新
瓜生小学校 四年 石倉 涼音

佳作

城崎小学校 一年 畑 里穂
織田小学校 三年 佐々木 詩穂
朝日小学校 四年 松村 謙希
城崎小学校 四年 別司 帆乃花
四ヶ浦小学校 六年 田中 奈々未

俳句部門 (中学生の部)

大賞

神戸市立鷹取中学校 三年 玉城 杏梨
「水仙の香る小路を走りけり」

奨励賞

朝日中学校 二年 清水 駿介
朝日中学校 三年 三上 夏歩

佳作

織田中学校 一年 富田 明日香
織田中学校 二年 佐々木 逸実
朝日中学校 二年 横田 智大
織田中学校 三年 山岸 理佑
朝日中学校 三年 宮川 莉奈

俳句部門 (高校生の部)

大賞

藤島高等学校 三年 富澤 春華
「故郷の香り気高き雪中花」

奨励賞

仁愛女子高等学校 一年 山口 梨絵
埼玉県立所沢高等学校 一年 湯本 亜柚

佳作

仁愛女子高等学校 一年 斎藤 夏美
埼玉県立所沢高等学校 一年 大森 美玖
丹生高等学校 一年 道前 美月
仁愛女子高等学校 二年 廣部 珠央
丹生高等学校 三年 横田 知香

俳句部門 (一般の部)

大賞

福井県越前市 上嶋 昭子
「受付に匂ふ水仙入籍す」

奨励賞

愛媛県松山市 森田 欣也
群馬県前橋市 鈴木 きよえ

佳作

神奈川県横浜市 竹澤 奈聡
福井県越前市 岬 奈実
福井県越前市 中山 昭子
福井県敦賀市 大和田 康夫
福井県福井市 草笛 雅也

詩部門 (小学生の部)

大賞

朝日小学校 二年 西野 華音
「カニとじゃんけん」
カニはいつもチョコキを出す。
じゃんけんよわそうだなー
うちのお姉ちゃんみたい。
お姉ちゃんは じゃんけんする時、
チョコキが出さない。

佳作

わたしはそれを知っているから
お姉ちゃんに負けたことないんだー
でもねこの前 お姉ちゃんがママと
話しているのを聞いてちゃった。
ママ「いつもチョコキが出さないから
負けるのよ。」
姉「わざとに負けてあげてるの!」
知らなかった!!
わざとだったんだ!
それじゃ、カニもわざとに
チョコキを出しているのかな?
うれしいなあ
やさしいなあ

詩部門 (中学生の部)

大賞

越前中学校 一年 濱 愛梨沙
「冬の音楽団」
サラサラサラ
風にゆれる花
チョコキチョコキチョコキ
波に乗ってくる生き物
風というフルート
水仙というトランペット
カニというティンパニ

佳作

朝日小学校 一年 阪下 雄亮
神明小学校 一年 原 彩花
朝日小学校 四年 西野 陽香
朝日小学校 六年 中村 朋香
四ヶ浦小学校 六年 佐々木 めい

詩部門 (一般の部)

大賞

あげられるようになっていった
一年生になって 二年生に
なって 三年生になって
四年生になって 五年生に
なって 六年生になって
(変わっていった わたし?)

佳作

あれは 卒業の日
はじめてのように 教室の中に
届けられた かおりでした
これまで ひとりで そばに行って
しゃがみ込んで 見詰めてきた
水仙の群れが 教卓の上の花びんに
活けられていた 切り花は
襟元のように 開いて匂った
「ここにいます みんな ここにいます」
先生から 離れるように
窓や戸を開けて だれもが
ひとかたまりでいられるように
かおりで 胸を いっぱいにした
ひとりひとりが 顔まで
花で いっぱいにした

詩部門 (高校生の部)

大賞

仁愛女子高校 一年 私市 琴野
「花のおいのする土は」
私の母の趣味は草とりらしい
庭をはずりまわって今日も草とり
ある時こんなことを言った
「この土は花のおいがする」
熱で頭がおかしくなってしまうたのかしら
そこはすこし前まで
水仙の葉っぱがわさわさと繁っていた所
葉っぱだけがわさわさと
食べられそうなくらい青々と
水仙の花?
咲いていたのを見たのはずいぶん前のこと
その土をほじってみると
小さな小さな球根が
肩をよせあい ぐちぐちと 並んでいた
植えかえてやらなかったから
植えっぱなしだったから
球根たちは ぐちぐちと ならんでいた
水仙の花のおい:
球根に いっぱいつまっていた
本当は暖かい日差しをあびて
満開に咲きたかったんだろう

詩部門 (一般の部)

大賞

愛知県一宮市 大江 豊
「卒業まで」
いつものところに
ひとかたまりになって
咲いていた 水仙が好きだった
わたしの家や隣近所の家にも
ひとかたまりになって咲いていた
遠足の日のように 毎年
通りすがりに 咲いていた
一年生になっても 二年生に
なっても 三年生になっても
四年生になっても 五年生に
なっても 六年生になっても
(変わらなかった わたし?)

佳作

「ここにいます」と
席を立て 席を譲ってくれた
その時のかおりと 空いた席を
埋めるように 一葉の写真を
遠くで近い 曇り空から 引き出して
てのひらの中で 色づけてあげたかった
春先にかけて 写し出された 一群体
なぜ? 「ここにいます」と
近寄って来てくれたのでしょうか?
あれから わたしも 背が伸びて
そで口から 風が入って来るようになった
自転車にも乗れるようになって
わたしの方から 通りすがりに
「(わたしは) ここにいますよ」と
代わりに 席を立て 声を掛けて

俳句部門 (小学生の部)

大賞

朝日中学校 一年 渡邊 優衣
越前中学校 一年 島田 侑季
織田中学校 二年 佐々木 湧仁
織田中学校 二年 谷口 菜月
越前中学校 三年 橋本 圭吾

奨励賞

越前中学校 二年 揚原 周
越前中学校 三年 豊浦 虎太郎

佳作

朝日中学校 一年 渡邊 優衣
越前中学校 一年 島田 侑季
織田中学校 二年 佐々木 湧仁
織田中学校 二年 谷口 菜月
越前中学校 三年 橋本 圭吾

俳句部門 (中学生の部)

大賞

朝日中学校 二年 清水 駿介
朝日中学校 三年 三上 夏歩

奨励賞

朝日中学校 二年 清水 駿介
朝日中学校 三年 三上 夏歩

佳作

織田中学校 一年 富田 明日香
織田中学校 二年 佐々木 逸実
朝日中学校 二年 横田 智大
織田中学校 三年 山岸 理佑
朝日中学校 三年 宮川 莉奈

俳句部門 (高校生の部)

大賞

藤島高等学校 三年 富澤 春華
「故郷の香り気高き雪中花」

奨励賞

仁愛女子高等学校 一年 山口 梨絵
埼玉県立所沢高等学校 一年 湯本 亜柚

佳作

仁愛女子高等学校 一年 斎藤 夏美
埼玉県立所沢高等学校 一年 大森 美玖
丹生高等学校 一年 道前 美月
仁愛女子高等学校 二年 廣部 珠央
丹生高等学校 三年 横田 知香

俳句部門 (一般の部)

大賞

福井県越前市 上嶋 昭子
「受付に匂ふ水仙入籍す」

奨励賞

愛媛県松山市 森田 欣也
群馬県前橋市 鈴木 きよえ

佳作

神奈川県横浜市 竹澤 奈聡
福井県越前市 岬 奈実
福井県越前市 中山 昭子
福井県敦賀市 大和田 康夫
福井県福井市 草笛 雅也

詩部門 (高校生の部)

大賞

仁愛女子高等学校 一年 青木 智也
仁愛女子高等学校 二年 高田 佳実

佳作

武生高等学校 一年 青木 智也
仁愛女子高等学校 二年 高田 佳実

詩部門 (一般の部)

大賞

あげられるようになっていった
一年生になって 二年生に
なって 三年生になって
四年生になって 五年生に
なって 六年生になって
(変わっていった わたし?)

佳作

京都府福知山市 塩見 史子
福井県鯖江市 東野 香緒里
福井県越前市 山口 美智子
福井県福井市 平林 静子
福井県越前市 齋藤 立子